

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(117)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(117)—

1. 始めに

前報(116)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。さらにスピーカーアキュライザーの接続をバナナプラグに置き換え、電解コンデンサーを追加し、電磁波吸収テープ NRF-005T をバナナプラグに巻いています。音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回はオペラの曲です。

ドイツグラモフォン 419 635-1

モーツアルト ドン・ジョバンニ

ヘルベルト・フォン・カラヤン指揮ベルリンフィル

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

ドイツグラモフォン盤ということで、TELDEC、逆相、第4時定数 High で聴いていきました。

女たらしのドン・ファンの伝説に基づくオペラでモーツアルトのオペラの傑作の一つとされています。

カラヤンの緩急、抑揚、強弱自在のオーケストレーションをバックに、ソプラノからバスまで登場人物が晴れやかに歌唱を披露します。

これらの人物の位置関係も明瞭に再現されており、終章にかけて歌手達のダイナミックな歌唱力が迫力のあるステージを繰り広げています。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果により、歌手のダイナミックな歌唱やオペラのステージ感など、上記の盤の特徴がよく把握できます。

以上